

「量子・AIハイブリッド技術のサイバー・フィジカル開発事業基本計画（案）」に対するパブリックコメント募集の結果について

2023年3月31日

NEDO

ロボット・AI部

NEDO POSTにおいて標記基本計画（案）に対するパブリックコメントの募集を行いました結果をご報告いたします。
貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

1. パブリックコメント募集期間
2023年1月10日～2023年1月25日
2. パブリックコメント投稿数＜有効のもの＞
計2件
3. パブリックコメントの内容とそれに対する考え方
次ページ以降参照

ご意見の概要	ご意見に対する考え方	基本計画・技術開発課題への反映
1. 研究開発の目的・目標・内容 (2) 研究開発の目標		
<p>[意見1] (1件)</p> <p>米国では、量子イノベーションを加速し国際市場でいち早く優位性を確保するため、グローバルな協創を刺激する目的で量子世界会議が2022年に開催されており、他にも複数のエコシステムコロニーが形成され互いの連携も始めています。また、欧州にも大規模なエコシステムが形成されています。しかしながら、量子コンピュータを用いたユースケース開発の多くは基礎研究～理論検証にとどまり、実証実験の加速が課題となっているとの調査結果もあります。</p> <p>本事業には実証実験を加速させ、国際量子市場における日本の優位性確保を確かなものとする可能性があります。その達成には様々なプレイヤーが協力し、真に量子・AIハイブリッド技術が生きる課題の特定やその解決に臨む必要があります。本事業の成果が社会課題解決に結び付くには、本事業の受託者及びその関係者はもちろんのこと、事業の枠を超えた将来のステークホルダの存在も見据えて、エコシステム形成を進めておくことが肝要と考えます。</p>	<p>有益なご意見ありがとうございます。</p> <p>本事業では成果の社会実装促進を念頭に、エコシステム構築の一環として、長期間にわたって技術・知見・ネットワークにアクセスできる場（テックコミュニティ）の活性化に貢献していく予定です。</p> <p>エコシステム形成は重要と考えていますので、ご提案頂きました内容も考慮して進めて参ります。</p>	<p>特になし</p>
2. 研究開発の実施方式 (1) 研究体制の実施体制		
<p>[意見2] (1件)</p> <p>1名のPMgrの下にPLを配置する体制は、他の国内大型研究開発事業と類似の体制とお見受けしますが、日本ではPLを支える、大学や企業研究所の研究マネジメントに特化した体制が欧米に比べて弱く、しばしば研究開発の遅延などに繋がっています。加えて本事業は、研究開発受託者が様々なステークホルダと連携しながら試験等を進める必要があるほか、知的財産の登録など調整や事務的処理の高度化が求められ、PL所属組織およびPL自身の負担増が予想されます。更に、進捗の見える化、ステージゲートの実施、外部評価、PL間に共通する研究推進上の課題の解決など、事業全体を俯瞰した統合マネジメントが事業の円滑な遂行に欠かせないものと推察します。</p> <p>従って、プロによるPMgrとPL組織の両方を支えるPMO機能（横断的マネジメント支援）の導入が事業の円滑な推進の実現に一翼を担うと考えます。</p>	<p>頂いたご意見にも留意しつつ、事業の円滑な推進、更には成果最大化に向けて、NEDOにおいて体制を構築し、プロジェクトマネジメントを進めて参ります。</p>	<p>特になし</p>

以上